

Saturday

2/24

趣向を凝らした絶品創作おやつ！



YouTube で動画が見れます！



第2回 孔子みそ料理学生選手権を開催

多久市の特産品「孔子みそ」を多くの人に広めるために、「孔子みそ料理学生選手権」(主催：孔子みそ料理学生選手権実行委員会)が多久市児童センターあじさい創作活動室で行われました。前回より100点ほど多い300点の中から最終審査で選ばれた4点のメニューが、実際に調理されました。今回のテーマは「孔子みそを使った創作おやつ」で和洋両方の料理があり、審査員は「若い人のアイデアに驚かされた」と評され、最優秀賞には牛津高校食品調理科の野田彩香さんの料理「さつまもとれんこんのみそっパイ」が選ばれました。「前日まで上手く出来なくて当日もどうなるか心配でしたが、上手く出来て良かった。老若男女を問わず食べて欲しい」と笑顔で話されました。



▲出場した選手たちと審査員のみなさん



▲最優秀作品の「さつまもとれんこんのみそっパイ」



▲凛とした志田林三郎博士のモニュメント。手に持つのは、電信用検流計

多久の偉人・志田林三郎博士がモニュメントに！

「佐賀ゆかりの偉人モニュメント」除幕式

Saturday

3/3



▲志田林三郎の像は佐賀市唐人町東線前に設置されています

肥前さが幕末維新博覧会の開幕を前に、佐賀市中心部に「佐賀ゆかりの偉人モニュメント」25体が設置され、多久市からは日本電気工学の祖である志田林三郎博士の像がお目見えしました。

除幕式には、山口知事、横尾市長、信太克規佐大名誉教授、志田林三郎顕彰会発起人の江口吉則さん、伝記作成に尽力された志佐喜栄学芸員などが参加。

横尾市長は「温故知新という言葉があるように、このモニュメントを通じて、志田林三郎という素晴らしい先生がいたこと、歴史、先人の功績を多くの人に知ってもらうきっかけになればと思っています」と話しました。

Monday

2/5

Friday

3/9

多久を堪能した1か月！

早稲田大学留学生地方訪問文化インターンシップ

早稲田大学に留学している外国人学生3人が約1か月間、多久市の家庭でホームステイ体験をしました。

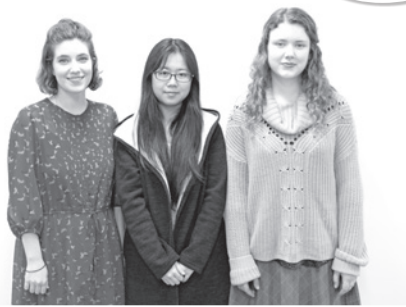
これは、大学の春休み期間に地方での日本文化を体験することを目的に行われているもので、多久市での受け入れは3回目。今回ノエルさん(米国:20歳)、ジェードさん(中国:20歳)、ノーラさん(米国:20歳)が訪れました。

滞在中は、農業体験、書道、陶芸、茶道だけでなく、中央校では児童に英語のレッスンも行いました。

ノエルさんは「多久市は、自然が多く静か。みなさん優しく、とても気に入りました。また必ず来たい」と名残惜しそうに話されました。



▲今回のインターンシップの報告会の様子



▲左からノエルさん、ジェードさん、ノーラさん

まちなわだい